にいがた新築大作戦 ⑤

ホールが部屋つなぐ

わが家のプランを三回にわたって図で紹介しました。自分の家のプランをどうしようかと考えたときに、最初に思い浮かんだのは生まれ育った家でした。

住まいの履歴

大学に入るまで住んでいたのは、祖父が建てた典型的な日本家屋でした。北側の玄関から入ると、廊下と階段があり、左手に台所、居間、風呂場、洗面所がありました。右手には北に応接間、南に和室の続き間、縁側がありました。右手の一番奥がトイレでした。二階は四畳半が左右に二部屋でした。縁側で父と日なたぼっこをしたことをよく覚えています。

この家は祖父が営林署に勤めていた関係もあり、大工の棟りょうが大変しっかり建ててくれたおかげで、築七十年を過ぎたいまでもメンテナンスをして、貸家として人が住んでいます。

大学に入学した年に両親が家を新築し、引っ越しました。この家は鉄筋コンクリート二階建ての家で、玄関の隣に階段、正面に主寝室、左にLDK、洗面所、風呂、トイレ、右に応接間でした。二階は階段を上がるとホールがあり、このホールに和室を含めた個室が三部屋とキッチンがありました。

この家には廊下がなく、一階も二階も中心にホールを置いて部屋がつながっていました。

たぶんこの家が、わが家のプランの原点であると思っています。

その後、東京で別の大学に通っていたとき住んでいたのはワンルームマンションでした。このマンションは便利のよい場所にありましたが、ただ寝るだけの部屋でした。

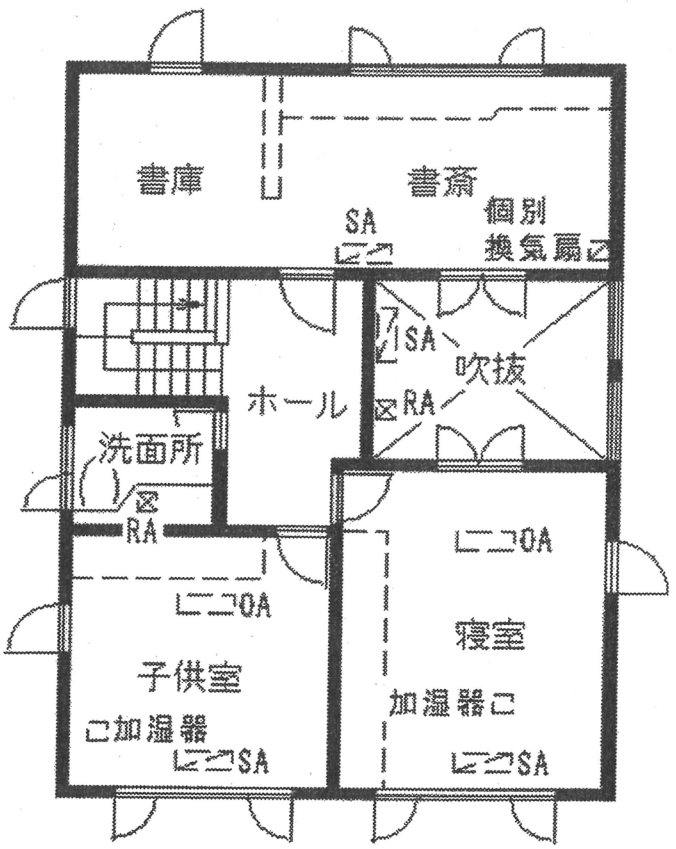
新潟に来てからは新潟駅近くの平屋の賃貸住宅に最初、住みました。この家も典型的な貸家のプランで、玄関の正面にトイレ、左に四畳半、奥にLDKと六畳の和室、風呂でした。

この家を貸した不動産屋は最悪でした。賃貸契約書に借り主に不利な条件があり、引っ越すときには敷金や前払いしていた家賃を返してもらえませんでした。

二年後に大学の宿舎に引っ越しました。研究室から歩いて三分で、ロケーションは最高でした。しかし、築二十年の五階建ての集合住宅で下の階への音の問題、風呂や換気扇などの設備の問題など、家賃が安いだけの不満だらけの住宅でした。

宿舎に住む前はマンションに住むのもよいかなと思っていましたが、実際に住んでみると制約が多く、やはり一戸建てと思いました。

（赤林伸一・新大自然科学研究科助教授）



わが家の3階平面図。中央にホールと吹き抜けを配置したプラン